

【特別支援学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立中原特別支援学校(本校)		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自立活動の充実」については、保護者、学校関係者、職員共に高い評価を得た。R5年度の校務分掌組織には「自立活動部」を設定した。さらに自立活動への取組を充実、発展させていく。</li> <li>「センター的機能の充実」については、基本的な業務はコロナ禍においても適切に実施されている。R5年度以降もさらなる充実発展が求められる。</li> <li>特別支援教育とICT教育は、障害種を問わず様々な活用がなされている。R4年度からR5年度にかけて研究指定を受けており、さらにこの分野を充実発展させていく。</li> <li>「自立と社会参加」の中で「進路指導」は大きなウエイトを占める。R5年度以降も引き続き力を入れて取り組んでいく必要がある。</li> <li>感染症対策については、保護者や学校関係者の評価も高い。安全、安心な学校環境をこれからも維持していく。</li> </ul>		
2 学校教育目標	一人一人に応じた指導・支援をとおして、児童生徒がもっている能力や可能性を最大限に伸ばし、明るくすこやかで豊かな心をもち、自立し社会参加できる児童生徒の育成を目指す。		
3 本年度の重点目標	<p>「児童生徒の豊かな生活と成長の保障」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>専門性の更なる向上と教育活動への反映</li> <li>個に応じた進路指導の充実</li> <li>特別支援教育のセンター的機能の充実</li> </ol>		

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者			
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)			実施結果	評価	意見や提言
					達成度(評価)	達成度(評価)	達成度(評価)					
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○児童生徒の実態把握と学習指導要領の各教科等の学習状況を踏まえて学習内容の設定を行い、学力の定着につながる授業ができたとする教員が85%以上	○児童生徒の実態把握と学習指導要領の各教科等の学習状況を踏まえて学習内容の設定を行い、学力の定着につながる授業ができたとする教員が85%以上	・個別の指導計画の作成をとおして、児童生徒の実態を把握し、学習指導要領の各教科等の内容と「学びの履歴」を踏まえて学習内容の設定を行う。 ・新設した教科指導力向上委員会、教科の専門性を生かした授業実践について検討する。また、学年や学習グループでの個別の指導計画の検討と評価を継続して行い、授業改善につなげる。	A	「学んだことが身につけている」と回答する保護者は86%、「学力の定着につながる授業を実現できた」と回答する教員は95%であった。学びの履歴を確認することで、授業計画時に内容をバランスよく指導する意識を持つことができている。また、内容を「バランスよく取り取り、効果よく作成できる個別の指導計画の模様の検討に取り組んでいる」。	A	「学んだことが身につけている」と回答する保護者は90%、「学力の定着につながる授業を実現できた」と回答する教員は97%であった。児童生徒の実態と学びの履歴を踏まえて作成した個別の指導計画を基に、授業実践ができている。また、学習指導要領に示された学べき内容を「バランスよく取り取り、内容を「バランスよく取り取り、効果よく作成できる個別の指導計画の模様の検討に取り組んでいる」。	A	・これからも本人にとって、役に立つ、学ぶべき、自立に必要な学習ができることを希望します。 ・数値目標を達成しており、かつ保護者からの評価も高いことから、学力の定着につながる授業ができていると思われず。 ・個別の支援計画の作成を効率よく行えるような作業方法と様式を令和6年度から変更する等更なる改善を行っていることは良いことだと思います。		
		○将来の自立と社会参加に向けた進路指導とキャリア教育の充実	○進路研修や現場実習等の取組をとおして、進路指導やキャリア教育に係る専門性が向上したと回答する教員が80%以上 ○児童生徒の実態や希望、ニーズに応じたキャリア教育ができていると回答する保護者が80%以上	・職員に向けた進路研修を年3回実施する。 ・各関係機関、福祉制度等の情報を月1回以上提供する。 ・児童生徒、保護者の希望やニーズを把握した授業や研修、進路見学、現場実習を実施する。	B	「進路指導や職業教育に係る専門性の向上が図れた」と回答する教員が90%に達し、「児童・生徒の進路や将来の生活について考える機会となった」と回答した保護者は69%であった。「わからない」と答えた保護者は25%であった。学校側、教員側の取組が保護者の理解につながるよう、実習等の際の丁寧な説明や情報提供を今後も行っていき、	A	「進路指導や職業教育に係る専門性の向上が図れた」と回答する教員が94%、「児童・生徒の進路や将来の生活について考える機会となった」と回答した保護者は81%となり、年間を通した取組が成果として表れた。	A	・生徒数が増える中で、一人一人に合った進路指導と実習が行われていると思います。 ・教員側の企業体験研修が新たな現場実習の受け入れに繋がったり、就労にも繋がったことは素晴らしいと思います。 ・研修を数多く実施し、職員の数値目標も達成しており、進路指導やキャリア教育が充実していると思われず。		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学習や児童会の活動、行事等で「豊かな心」を育む指導を心がけた教員が80%以上 ○「豊かな心」を育むために、学校生活が役に立っていると思ふ保護者が90%以上	○学習や児童会の活動、行事等で「豊かな心」を育む指導を心がけた教員が80%以上 ○「豊かな心」を育むために、学校生活が役に立っていると思ふ保護者が90%以上	・全課程全学年の児童生徒に「平等、尊重」の心を育む児童会活動や集会を実施する。 ・人権・向和研修会を実施する。	A	「児童生徒委員会活動は通常開催、全校集会も通常実施等、コロナ禍で見送ってきたものを、予定通りに工夫してできた」。	A	「委員会が通常実施で、集会はリモート活用もしたが、交流活動を企画して有意義なものとなった」。	A	・小中高と幅広い年齢、障害種がある中でお互いを認め合う「豊かな心」を育むことができていると感じます。 ・数値目標を大きく上回っており、交流活動を企画したことで、良い教育活動ができていると思われず。		
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○早期発見と対応に向け、職員の共通理解ができていると答える教員が80%以上 ○日頃の連絡、面談、調査等で、児童生徒の生活状況を学校(担当)と共通理解ができていると答えた保護者が80%以上	・学校基本方針の共通理解と周知徹底のために、職員研修を実施する。 ・職員アンケートを月1回、保護者アンケートを学期1回実施する。	A	「年度当初の学校基本方針、8月の職員研修を予定通りに実施した」。	A	「職員研修を実施し、共通理解の下で組織的対応ができた(教員95.3%)。早期発見と未然防止に努めることができた(保護者88.6%)。概ね理解を得た数値といえる」。	A	・アンケートは、記入しやすい形式でした。 ・いじめへの対応という目的だけでなく、家庭での子供の様子に変わりがないか見ていくこと、担任と連携していくことが大切だと思います。 ・数値目標を大きく上回っており、職員の意識が高く、取り組みも充実していると思われず。		
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組むこととするための教育活動	●「先生はあなたの取り組みを、掲示や発表という形でよくまとめてくれると思う」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や生活していく上での楽しみをもっている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	●「先生はあなたの取り組みを、掲示や発表という形でよくまとめてくれると思う」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や生活していく上での楽しみをもっている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・児童生徒の創作活動や職場実習、その他の行事で、掲示や発表等という活動成果を認めることができる機会の設定をする。 ・児童会活動において小中高の段階に応じて、将来の夢に繋げられるような、毎日、週末、月、季節との楽しみを喚起する。	B	「中・高は体育祭もあり(今は後期)、創作や掲示の機会や発表の場を設定、学部学年の違いはあるものの随時できた」。	A	「児童生徒会本部役員を中心に、夢や楽しみを喚起する活動や呼びかけを模索していき、各学部・課程・学年ごとでも、そこにつながるような指導・支援を検討していく必要があると感じる」。	A	・一人一人の好きなことや夢が直接の就労につながり、働くことのご褒美になるので、大切にしていきたいです。 ・親も本人の作品や発表、各行事を積極的に見学し、本人を褒めてやりたいです。 ・アンケート結果の数値も高く、良い教育活動ができていると思われず。引き続き指導・支援の検討、継続をしてください。		
		●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒が80%以上 ○研修や講話によって、食育への知識と意識が高まったと回答する職員が80%以上 ○学校からの情報が、家庭での食育に役立ったとする保護者が80%以上	●「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒が80%以上 ○研修や講話によって、食育への知識と意識が高まったと回答する職員が80%以上 ○学校からの情報が、家庭での食育に役立ったとする保護者が80%以上	・職員研修、給食試食会、食育講話等を実施する。 ・食育だよりを発行する。	A	「食育だよりを発行し、職員・児童生徒・保護者へ食育の意識を高めることができた。今後も継続されていく」。	A	「給食を「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒が80%以上であった」。	A	・PTAの給食試食会が今年、開催され、栄養教諭から給食についての様々な配慮があることを知りました。 ・栄養教諭のお話を聞き、栄養や味付けについて家庭で考えるきっかけになりました。 ・数値目標(保護者・職員)を大きく上回っており、食育の意識と知識が高まっていると思われず。	
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○本校の感染症予防、感染症拡大防止	○本校の感染症対策基本方針を守っているとする職員が100% ○学校の感染症対策は、適切であると回答する保護者が80%以上	・本校の感染症対策基本方針を周知徹底する。 ・予防及び指導の徹底を図る。 ・感染者が発生した場合には、改善点を検討する。	A	「コロナウイルス感染症が5月に2類から5類に移行され、本校での感染症対策基本方針を改定し、その後、改定版を職員、保護者へ配布し、周知を図ることができた」。	A	「学校の感染症対策は、換気や手洗い等を継続して実施してきた。また、保健だよりを通して、感染症に関する情報も発信することができ、保護者アンケートの学校の感染症対策は適切である回答する保護者が85%であった」。	A	・コロナウイルスだけでなく、インフルエンザも今年冬の流行が見られましたが、本校では、学級閉鎖等にならず、学校での感染症対策の効果があったのだと思います。 ・保護者の数値目標は達成しており、感染症対策の徹底ができていると思われず。		
		○効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○各職員が分掌部の専門性や知見を地域支援に活かす。本校は地域の特別支援教育のセンター的役割を十分に果たしているとする職員が80%以上 ○研修会の内容や巡回相談の活用について適宜評価する。巡回相談における支援・助言により状況が改善したと考える学校が80%以上	・地域の要請に応じて、校内の分掌部及び専門家チーム、地域のアドバイザーや各関係機関と連携しながら巡回相談を実施する。地域支援組織委員会、各分掌部会や職員会議でセンター的機能の役割を周知し、年度末に評価を行う。 ・研修会後等にアンケートを行い、研修会や巡回相談についての地域のニーズを把握し、分析活用する。	A	「各市町教育委員会、及びその他関係機関と連携し、巡回相談を行った」。	B	「地域の要請に応じて、専門家、教育委員会、相談支援事業所、関係機関と連携しながら、巡回相談を行った」。	A	・地域の学校の先生方も特別支援学校の支援やアドバイスが受けられることは、心強いと思います。 ・職員のアンケートで「評価できる」割合が多いとのことだが、センター校の役割は十分に果たしていると考えます。		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○地域の人々と活動を共にする交流及び共同学習の積極的な推進	○地域の人々と活動を共にする交流及び共同学習の積極的な推進	・年2回の地域各種団体とのふれあい活動や清掃活動の実施。 ・地域の団体との交流活動として遊び交流会の実施。	A	「昨年度までコロナ禍により実施を見合わせていたナーミー活動をふれあい交流活動と完全に復活させ、予定通り実施し、実施した。今後、コロナ禍前に戻すことだけではなく、コロナ禍で取り組んだコロナで学んだICTを活用した交流方法も模索しながら、地域交流を推進してきたい」。	A	「コロナ前とは内容を精選しながら、ナーミー活動として地域各種団体とのふれあい交流活動を完全に復活させ、予定通り実施することができた」。	A	・この先も地域で暮らしていく子どもたちにとって、ナーミー活動、老人クラブ、三養基高校との交流など地域との繋がりをもつことは重要だと思います。 ・アンケート結果の数値も高く、様々な団体との交流活動の推進も十分にできていると思われず。		
		●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 遵守できたと回答する職員が80%以上	・毎週金曜日「ノー会議デー(一定時退勤推進日)」を設定する。 ・年間12回以上「完全定時退勤日」を設定する。(各校舎の状況に合わせて) ・時間外在校等時間が月45時間を超える職員については管理職による面接を実施する。	B	「完全定時退勤日」は、月1回のペースで実施しており、職員の希望により木、金曜日以外の曜日に実施するように今年度見直しを行った」。	A	「1月1日の「完全定時退勤日」の実施については、実施日の見直しの方が楽し、全職員に高い評価(92%)を得て実施することができた」。	A	・先生方、職員の皆様には、心も体も健康で指導や業務を行っていただきたいです。 ・職員の数値目標も達成しており、職員の働き方改革の推進が順調であると思われず。		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
					進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		
○1人1台端末を活用した授業改善	●ICT活用	○児童生徒一人一人が「分かる」「できる」授業づくり(個別最適な学び)を行う上での1人1台端末の効果的な活用がされていると回答した保護者・職員が70%以上	○児童生徒一人一人が「分かる」「できる」授業づくり(個別最適な学び)を行う上での1人1台端末の効果的な活用がされていると回答した保護者・職員が70%以上	・全職員が年2回以上は校内外でのICT活用に関する研修に参加する。 ・外部人材を活用しながら、1人1台端末活用に関する研修を計画的に行う。 ・個人やチームで教科指導や自立活動の視点から授業を振り返り、改善する。 ・保護者や地域に向けての広報誌を年4回発行する。	A	「11月までICT活用に関する校内研修を8回、外部講師を招いた研修会を4回行った。全職員が2回以上はICT活用に関する研修に参加できている」。	A	「ICT・1人1台端末活用に向けた授業振り返りシート」を活用して、各自で授業の振り返りを行った。そこで出た課題を改善するために、12月の公開授業研究会に向けてグループや個人で授業づくりを行っている」。	A	・広報誌「GIGAびより」によって、一人一台端末についてや公開授業の様子を知ることができました。 ・保護者からの評価が高い項目であり、保護者・職員ともにアンケート結果の数値も高く、保護者や地域に向けての情報発信が順調であると思われず。
●…真共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点項目全11項目において保護者、学校関係者、職員から高い評価を得ることができた。</li> <li>令和6年度の校務分掌組織において、自立活動部を自立活動部と研究部に分離する。自立活動部は、個別の指導計画(自立活動)の充実、それに基づく自立活動の推進と指導時間の確立を図っていく。研究部は、授業づくり等の校内研究とそれに関わる職員研修及び連盟関係業務に取り組む。</li> <li>進路指導とキャリア教育に充実については、年間を通じた地道な取り組みが保護者の理解の向上につながった。引き続き実習等の丁寧な説明や情報の提供を継続していく。</li> <li>特別支援教育のセンター的機能の充実については、地域のニーズに応じた専門家チームや地域アドバイザー、関係諸機関と連携して巡回相談や研修会を実施した。そのときの助言や支援によって状況が改善している学校が増加し、地域に定着してきた。来年度もニーズの把握、分析をしながらかき、その活動を継続していく。</li> <li>1人1台端末を活用した授業改善では、職員のICTリテラシーは、確実に向上している。保護者や地域に向けての情報発信について、更なる働きかけを推進してきたい。</li> </ul>									